

令和元年度事業報告

昨年度は、第34回全国大会を5月23日に自由民主党本部の9F901会議室において、266名を集め開催した。

自由民主党を代表して挨拶された稲田朋美・筆頭副幹事長は、「平成28年当時、私が政調会長で二階先生が総務会長の時に、二階先生の大変なご尽力で『差別問題に関する特命委員会』と『部落問題に関する小委員会』を立ち上げ、精力的な取り組みで自民党の議員立法として『部落差別解消法』が成立しました。また、同時期に「性的指向・性自認に関する特命委員会」を立ち上げたが、『LGBT理解増進法』は未だ成立していない。多様性を認める社会の実現のためにも『LGBT理解増進法』の成立に尽力する」と述べられた。

また、差別問題に関する特命委員会の委員長である平沢勝栄・衆議院議員、部落問題に関する小委員会の委員長である山口 壯・衆議院議員、全国隣保館連絡協議会の川口寿弘・会長、(一社)LGBT理解増進会の繁内幸治・代表理事からもあいさつをいただいた。

昨年は7月に参議院議員の選挙があり、私どもは衛藤晟一・内閣総理大臣補佐官を比例区の候補として推薦したことで、衛藤晟一・内閣総理大臣補佐官に推薦状を手渡すとともに、あいさつをいただいた。

記念講演では、京都産業大学文化学部教授の灘本昌久さんが、「近世政治起源説を問う」—エタ村の起源とその歴史—のテーマでお話しされた。

議事では、令和元年度から令和3年度までの役員や令和元年度の運動方針など、すべての議案を滞りなく承認した。

11月には、毎年実施している定期中央省庁要請行動を行い、同和問題の早期完全解決に向け令和2年度の人権関係予算の拡充を要請するとともに、「人権擁護法案」の早期成立への協力を要請した。

毎年開催している幹部研修会では、テーマを「いわゆる『解放令』以降も部落差別が続いている要因は何か」—江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代の戦前と戦後、同和対策関連法後から現在までの差別意識の変遷について—とし、パネリストに関西大学社会学部教授の石元清英さんと京都産業大学文化学部教授の灘本昌久さん、コーディネーターを中央本部の平河秀樹・事務局長が務めシンポジウムを行った。

自由民主党を代表して稲田朋美・筆頭副幹事長、門 博文・国土交通省大臣政務官、(一社)LGBT理解増進会の繁内幸治・代表理事の3名からあいさつをいただいた。

全国大会と幹部研修会も、いずれもインターネットのYouTubeで、開会から閉会までの全日程をLive中継するとともに、その中継の録画を自由同和会中央本部のホームページ上に載せ、Live中継を見逃した人でも視聴できるようにしたこと、及び、新規加入として新潟県本部が、再加入として岡山県本部と兵庫県本部が仲間に加わり、23都府県本部になったことをお知らせし、令和元年度の事業報告にする。